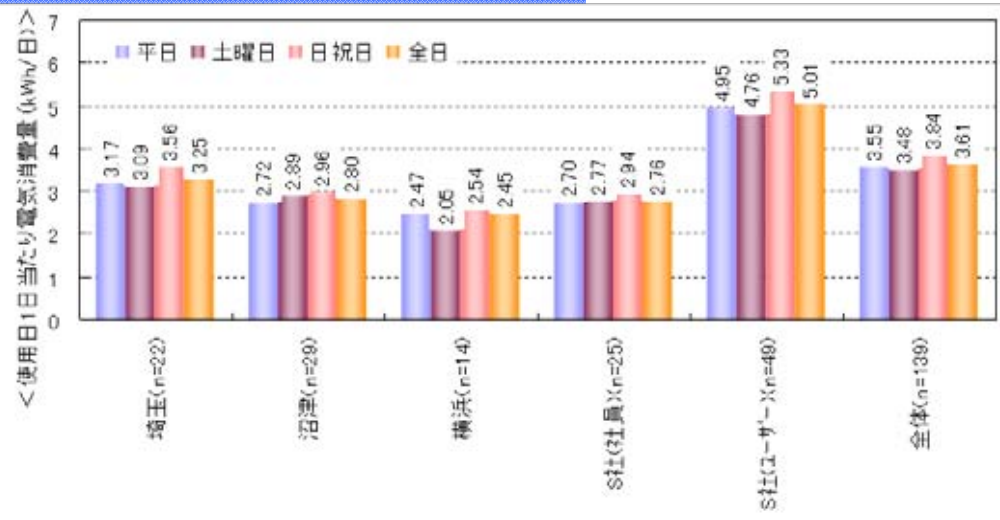


3-1-2.電気消費量-20

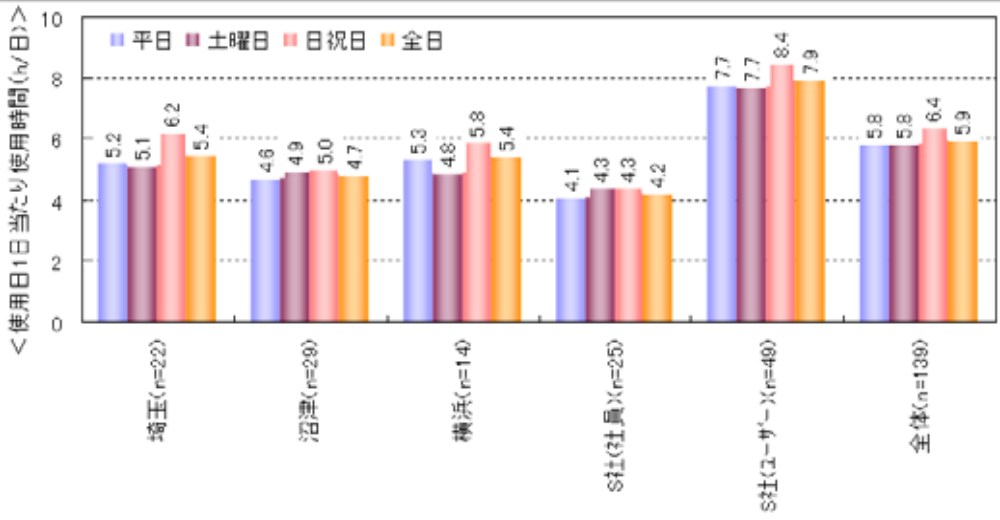
エアコン(暖房)

<電気消費量・使用時間の傾向>

- ・1日当たり電気消費量は、各世帯とも日祝日が最も多く、以下は平日が多い世帯と、土曜日が多い世帯の双方がみられる。S社(ユーザー)の電気消費量が他と比べて多いが、住宅全体の複数のエアコンが含まれているためである。
- ・一日当たり使用時間も、電気消費量と同様の傾向を示す。



・使用日1日当たり電気消費量(kWh/日)



・使用日1日あたり使用時間(h/日)

S社(ユーザー)は住宅全体のエアコン

3-1-2.電気消費量-21

・1月のエアコン(暖房)の利用率

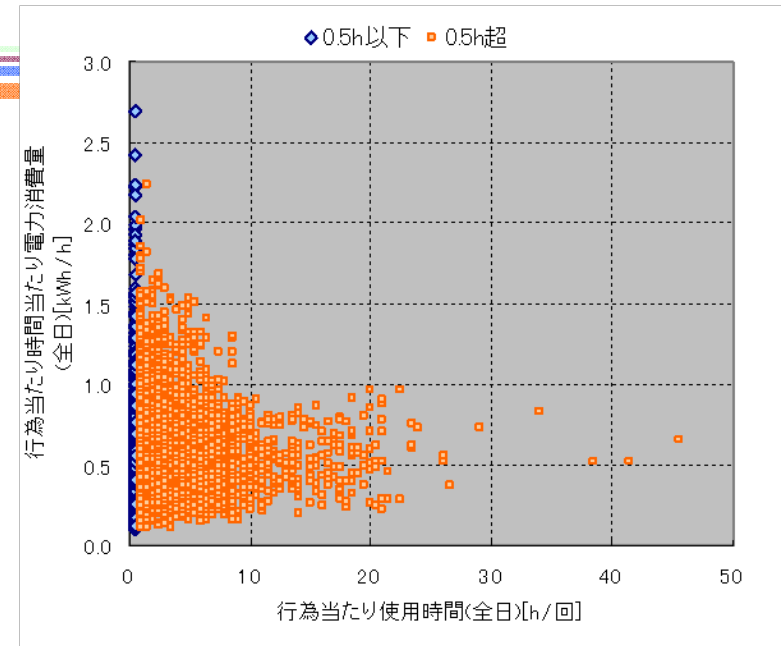
	平日	土曜日	日祝日	全日	n
埼玉	69%	68%	69%	69%	25
沼津	49%	51%	48%	49%	46
横浜	55%	54%	50%	53%	23
S社(社員)	40%	40%	40%	40%	45
S社(ユーザー)	89%	86%	86%	88%	53
全体	51%	51%	49%	51%	139

S社(ユーザー)は住宅全体のエアコンのため全体からは除外
計測期間は2010年1月分

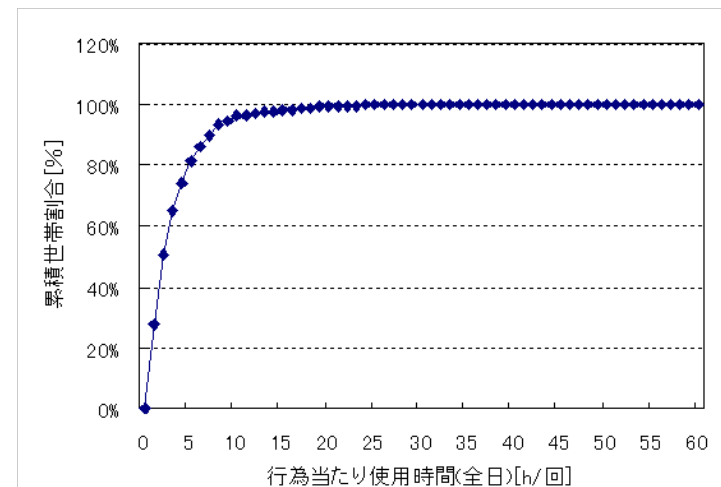
利用率:各世帯が計測期間中に使用した日の割合

- ・暖房の利用率は、曜日による差はみられない。
→冷房に比較して**必需的な需要**であることから、**曜日差がみられない**。
- ・エアコン(暖房)の行為当たりの使用時間は、5時間未満が全体の8割を占める。

注) エアコンをこまめにon-offすると、連続使用するよりかえって電気消費量が増える場合がある。



・エアコン(暖房)行為当たり使用時間



・エアコン(暖房)行為当たり使用時間(累積頻度分布)

3-1-2.電気消費量-22

- 計測対象のランプ消費電力(W数)と1日当たり平均点灯時間(平日)
- 計測対象のランプ消費電力は、60～100W程度、1日当たり使用時間は3～8時間程度に多く分布している。
 - 点灯回数は平均2.1回。居間・食堂などの人が集まる場所では、点灯回数が少なく、こまめに消す効果が現れにくい。
 - 逆に、こまめに消す行為による省エネは、個室の照明の方が効果的と考えられる。

	最小	下位 25%	上位 25 %	最大	平均	(N=49)
日平均点灯時間 (分/日)	0	194	495	1,103	359	
一日当たり点灯回数 (回/日)	0.6	1.4	2.7	8.0	2.1	
一点灯当たり点灯時間 (分/回)	22	128	248	689	204	
ランプ消費電力(W)	13	60	96	316	75	

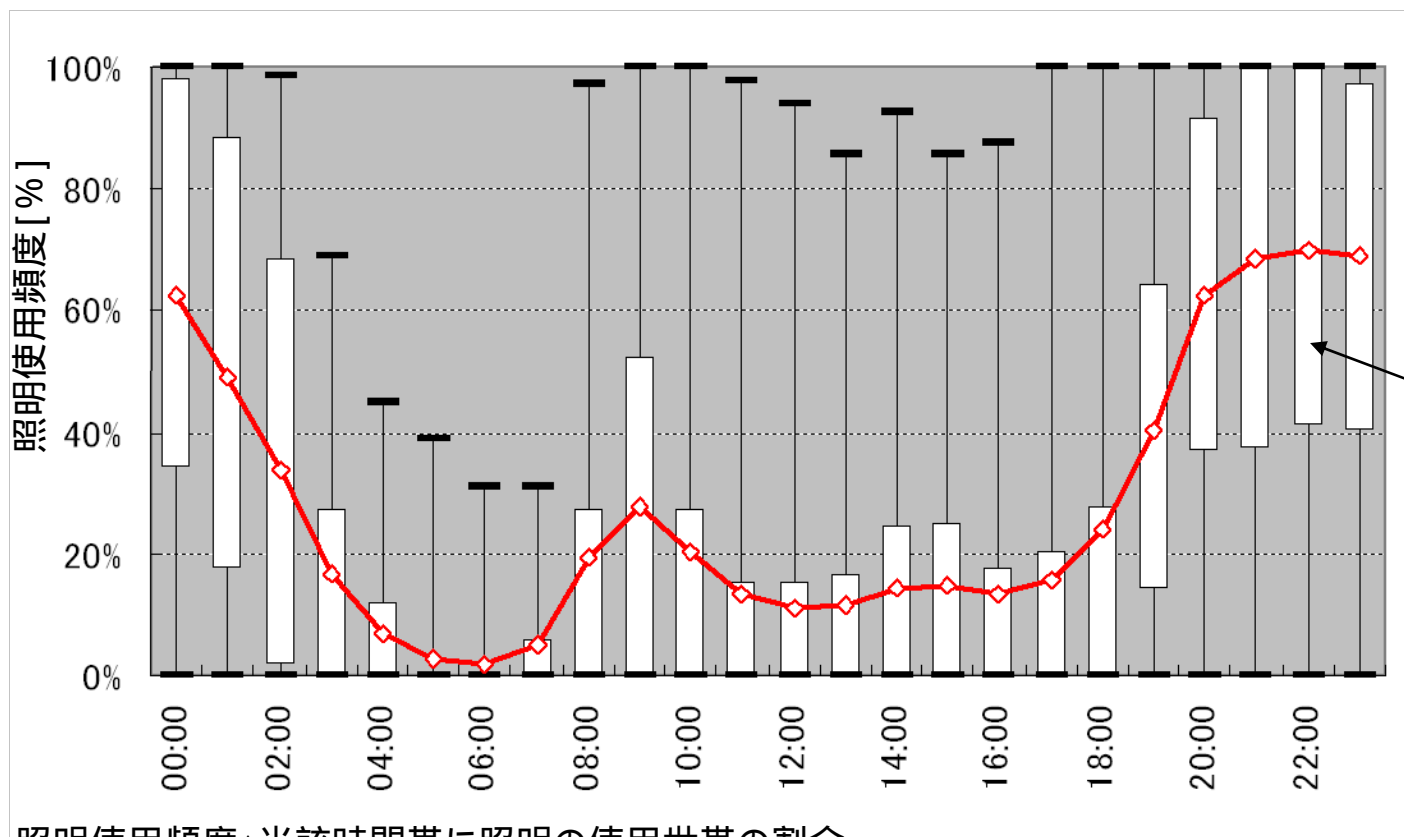
3-1-2.電気消費量-23

時刻別の各世帯の照明使用頻度

夜間の6時ごろから照明を使用する世帯が多い。

朝は、9時に小ピークが見られる。

10%強が昼間在宅に伴って照明を使用している。



照明使用頻度: 当該時間帯に照明の使用世帯の割合

各世帯の使用頻度のばらつき

3-2-1.省エネ行動実験 - 1

(2) 省エネ行動実験 - 「テレビ」

省エネ行動【夏季】：画面の明るさを抑えめにする

→「画面の明るさを抑えめにする」はテレビ使用1時間当たり電気消費量の削減が期待される。

・1時間当たり電気消費量(Wh/h)

No.	グループ	実験前のテレビに関する省エネ行動(夏季)	実験中のテレビに関する省エネ行動(夏季)	(a) 1時間当たり電気消費量 <実験前1週間平均 > (Wh/h)	(b) 1時間当たり電気消費量 <実験中1週間平均 > (Wh/h)	個別サンプル毎の (b)/(a)の 平均 (%)	No.4に対する比 (%)	n
1		行った	行った	102	93	92%	92%	13
2	省エネ行動要請世帯	行わなかった	行った	125	116	92%	92%	40
3		行わなかった	行わなかった	88	88	100%	100%	17
4	【参考】見える化機器設置のみ世帯			137	137	100%	100%	68

・見える化機器設置のみ世帯(左表No.4)に対して、省エネ行動変化を起こした世帯(同²⁾)では8%の省エネ効果が見られた。

3-2-1.省エネ行動実験-2

3-2-1.省エネ行動実験-「テレビ」

省エネ行動【秋季】：こまめに消す

→「こまめに消す」はテレビ使用時間の短縮効果が期待される。

・1日当たり使用時間(h/日)

No.	グループ	実験前のテレビに関する省エネ行動(秋季)	実験中のテレビに関する省エネ行動(秋季)	(a) 1日当たり使用時間 <実験前1週間平均 > (h/日)	(b) 1日当たり使用時間 <実験中1週間平均 > (h/日)	個別サンプル毎の (b)/(a)の 平均 (%)	No.3に対する比 (%)	n
1	省エネ行動要請世帯	行った	行った	7.4	7.3	102%	97%	42
2		行わなかった	行った	9.9	9.0	93%	88%	16
3	【参考】見える化機器設置のみ世帯			9.0	9.1	105%	100%	68

・1日当たり使用時間で見ると、省エネ行動変化を起こした世帯(左表2)は7%の省エネ効果が見られた。

注) 1時間当たり電気消費量(h/日)は各グループ間で差が見られなかった。
実験前「行わなかった」かつ実験中「行わなかった」は該当世帯がなかった。

3-2-1.省エネ行動実験 - 3

3-2-1.省エネ行動実験 - 「テレビ」

省エネ行動【冬季】：音量を抑えめにする

→「音量を抑えめにする」はテレビ使用
1時間当たり電気消費量の削減を確認

・1時間当たり電気消費量(Wh/h)

【テレビ総括】

・省エネ効果は、「画面の明るさを抑えめにする」「こまめに消す」が大きい。テレビの1日当たり使用時間が長いことから、省エネ行動によるCO2削減量は大きい。

No.	グループ	実験前のテレビに関する省エネ行動(冬季)	実験中のテレビに関する省エネ行動(冬季)	(a) 1時間当たり電気消費量 <実験前1週間平均 > (Wh/h)	(b) 1時間当たり電気消費量 <実験中1週間平均 > (Wh/h)	個別サンプル毎の (b)/(a)の 平均 (%)	No.3に対する比 (%)	n
1	省エネ行動要請世帯	行った	行った	119	117	99%	99%	35
2	省エネ行動要請世帯	行わなかった	行った	111	109	98%	98%	11
3	【参考】見える化機器設置のみ世帯			143	143	100%	100%	58

・見える化機器設置のみ世帯(左表No.3)に対して、省エネ行動変化を起こした世帯(同²⁾)ではほとんど効果が見られなかった。

3-2-1.省エネ行動実験 - 4

3-2-1.省エネ行動実験 - 「冷蔵庫」

・冷蔵庫の省エネ行動(温度設定を1段階弱める)は、行動変化を起こした世帯(右表1)が、行動を起こさなかった世帯(同3)より3~7%の省エネとなっている。

・省エネ行動を起こさなかった世帯が多く見られるのは、夏季の場合、「中」で設定している場合には、食品の衛生面から、下げる必要がないことを事前にアナウンスしており、実験前に「中」に設定している割合が6割と高いことによる。

1日当たり電気消費量(Wh/日)

夏季:

No.	グループ	冷蔵庫省エネ行動実験の取組状況(夏季)	(a) 1日当たり電気消費量 <実験前1週間平均> (Wh/日)	(b) 1日当たり電気消費量 <実験中1週間平均> (Wh/日)	個別サンプル毎の (b)/(a)の 平均 (%)	No.3に対 する比 (%)	n
1	省エネ行動要 請世帯	行動変化を起こした世帯	2,701	2,390	89%	96%	40
2		起こさなかった世帯	2,632	2,419	92%	99%	68
3	【参考】見える化機器設置のみ世帯		2,779	2,565	92%	100%	74

秋季:

No.	グループ	冷蔵庫省エネ行動実験の取組状況(秋季)	(a) 1日当たり電気消費量 <実験前1週間平均> (Wh/日)	(b) 1日当たり電気消費量 <実験中1週間平均> (Wh/日)	個別サンプル毎の (b)/(a)の 平均 (%)	No.3に対 する比 (%)	n
1	省エネ行動要 請世帯	行動変化を起こした世帯	1,958	1,808	92%	95%	80
2		起こさなかった世帯	1,739	1,653	95%	98%	38
3	【参考】見える化機器設置のみ世帯		1,962	1,913	97%	100%	77

冬季:

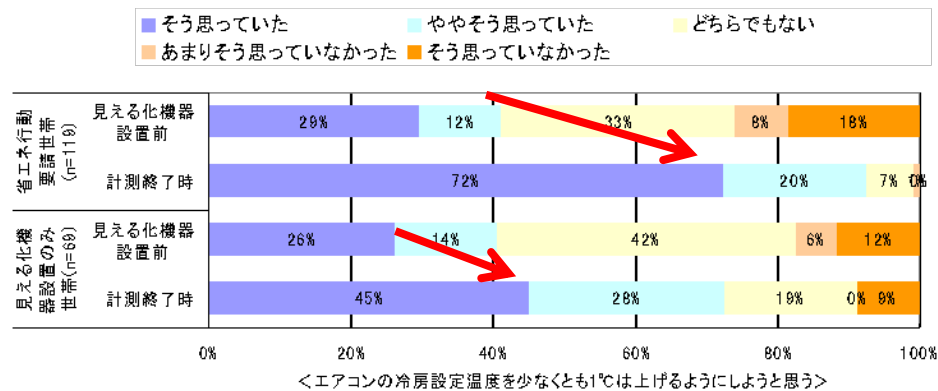
No.	グループ	冷蔵庫省エネ行動実験の取組状況(冬季)	(a) 1日当たり電気消費量 <実験前1週間平均> (Wh/日)	(b) 1日当たり電気消費量 <実験中1週間平均> (Wh/日)	個別サンプル毎の (b)/(a)の 平均 (%)	No.3に対 する比 (%)	n
1	省エネ行動要 請世帯	行動変化を起こした世帯	1,358	1,306	96%	92%	12
2		起こさなかった世帯	1,289	1,311	103%	98%	95
3	【参考】見える化機器設置のみ世帯		1,401	1,457	105%	100%	69

3-2-2.見える化効果-1

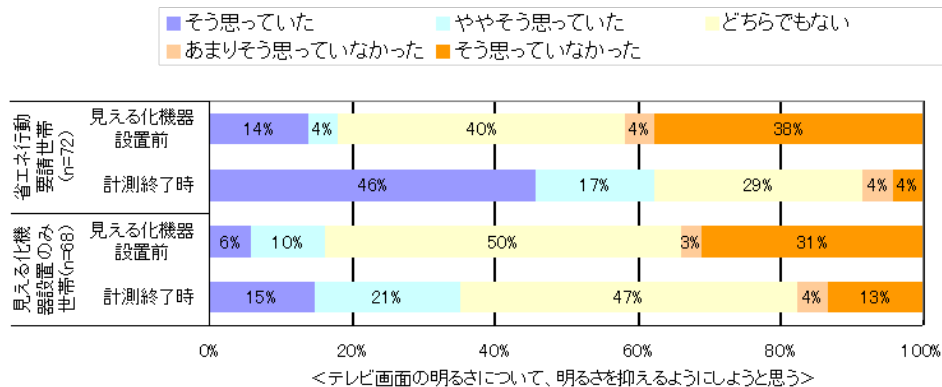
(1)見える化による省エネ行動意図の変化の傾向

- 見える化機器設置のみ世帯と省エネ行動要請世帯の比較 -

・エアコン冷房設定温度を上げようと思う



・画面の明るさを抑えようと思う



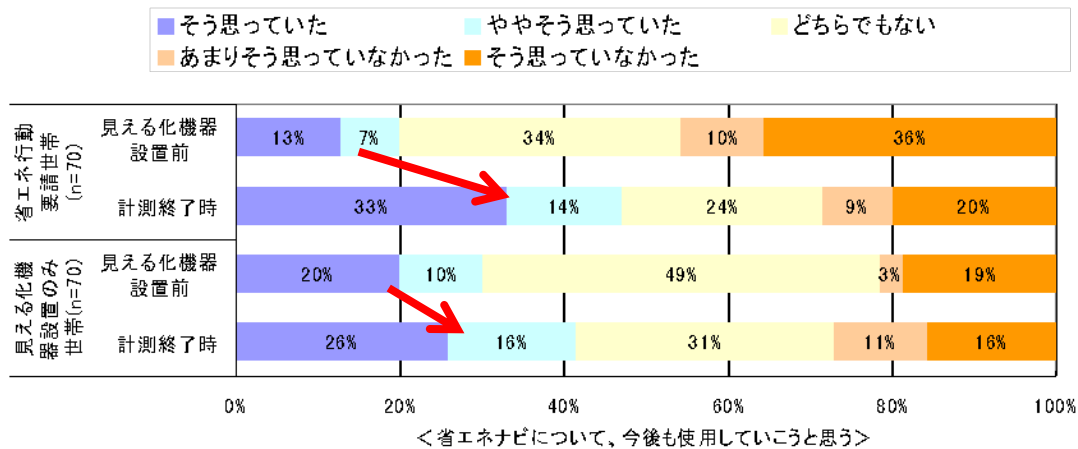
・省エネ機器設置前と計測終了時の省エネ行動意図の変化は、省エネ行動要請世帯・見える化機器設置のみ世帯ともに生じている。

・省エネ行動要請世帯では省エネ行動意図の変化が顕著であるが、見える化機器設置のみ世帯においても計測終了後には省エネ行動意図の変化が高まる傾向が見られる。

3-2-2.見える化効果-2

(1)見える化による省エネ行動意図の変化の傾向(つづき)

・見える化機器の利用意向



・見える化機器の利用意向は、省エネ行動要請世帯、見える化機器設置のみ世帯ともに、計測終了後では「そう思っていた」「ややそう思っていた」が40%超となり、利用意向が高い。

3-2-2.見える化効果-3

(2)見える化機器設置のみ世帯における省エネ行動変化

- 機器設置前に比べて計測終了時に省エネ行動をとるようになった世帯の割合 -

省エネ行動の取組状況

・見える化機器設置前

省エネ行動		していた	していなかった	不明	n
テレビ	画面の明るさを抑えめにする	10%	78%	12%	78
	音量の大きさを抑えめにする	8%	77%	15%	78
	こまめに消す	74%	17%	9%	78

省エネ行動		強	中	弱	その他・不明	n
冷蔵庫	庫内の温度設定を低めにする(夏季)	14%	55%	15%	15%	78
	庫内の温度設定を低めにする(秋季)	15%	62%	8%	15%	78
	庫内の温度設定を低めにする(冬季)	23%	58%	4%	15%	78

省エネ行動		していた	していなかった	不明	n
エアコン	エアコン冷房を必要な時に使用する	86%	4%	10%	78
	エアコン暖房を必要な時に使用する	77%	4%	19%	78

・見える化機器設置前に対する計測終了時の省エネ行動の変化



差が大

差が小

「省エネ行動を起こした」世帯は、見える化機器設置前より省エネ行動を行うようになった世帯

3-2-2.見える化効果-4

(2)見える化機器設置のみ世帯における省エネ行動変化

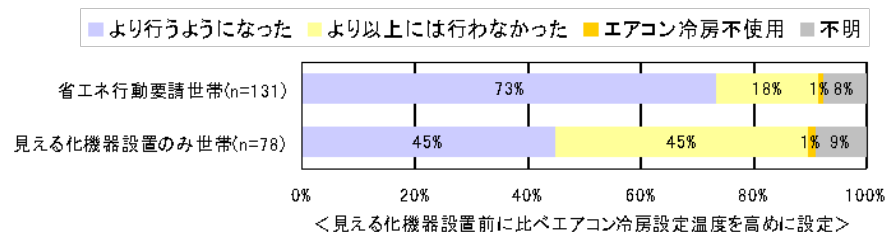
見える化機器設置のみ世帯において機器設置前に比べて計測終了時に省エネ行動をとるようになった世帯の割合を示す。

- ・「より行うようになった」(行動を変えた)割合は、省エネ行動の種類によって差がある。
- ・割合が高い行動は、「エアコン設定温度」「テレビ音量」「テレビ画面の明るさ」であり、使用時間が減少する行動より、単位時間当たりの消費電力量が減少するような行動に効果がある傾向がある。
- ・冷蔵庫に係わる行動は、いずれも割合が低い。
- ・「冷蔵庫の庫内温度設定」については、見える化機器設置前から行っている割合は低い。食品衛生面から行動自体に抵抗感があるとの回答が多い。
- ・一方、「エアコンをこまめに消す」については、見える化機器設置前から行動している割合が高く、既に行動が起こっている。

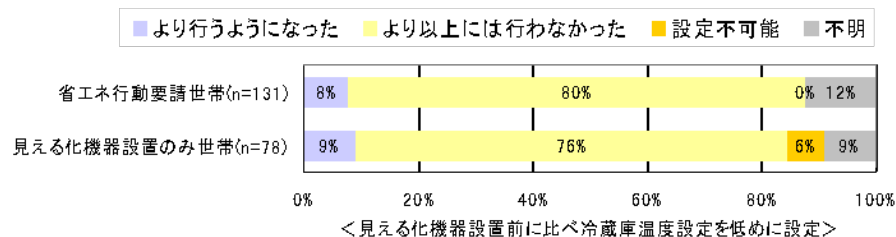
3-2-2.見える化効果-5

省エネ行動要請世帯と見える化機器設置のみ世帯の比較

・エアコン冷房設定温度を上げる



・冷蔵庫 庫内温度設定を弱める(夏)



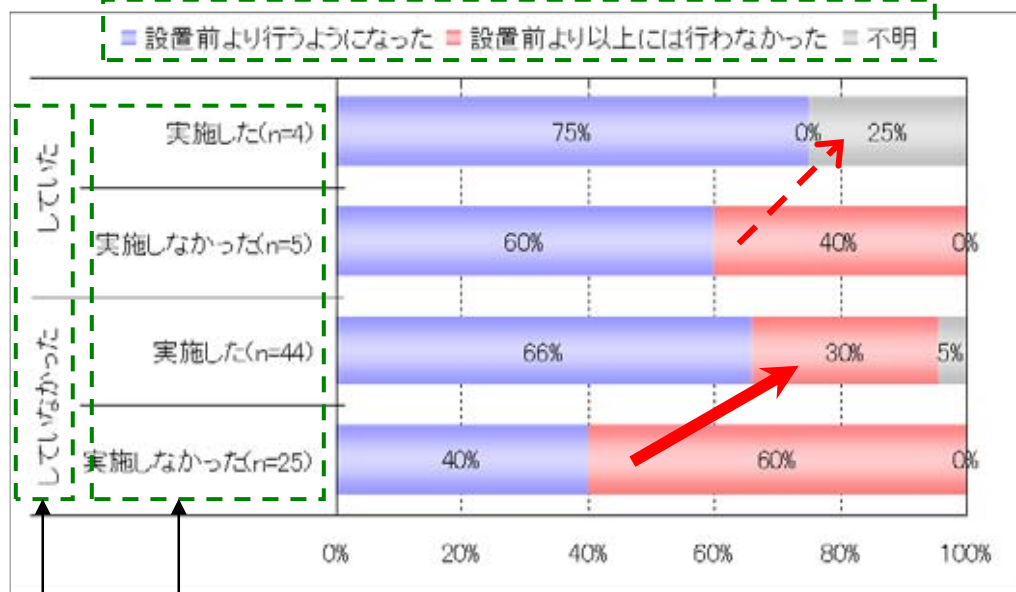
- ・省エネ行動のうち2種類について、行動変化の割合を、省エネ行動要請世帯と見える化機器設置のみ世帯で比較する。
- ・「エアコン冷房設定温度」については、省エネ行動要請世帯の行動変化が大きい。見える化機器設置のみ世帯でも、高い割合で行動変化が生じている。
- ・「冷蔵庫庫内温度設定」については、省エネ行動要請世帯と見える化機器設置のみ世帯はともに行動変化が生じていない。
- ・省エネ行動変化の生じる割合は、行動の種類によって異なる。
- ・したがって、自分の電気消費の状況を把握することが行動変化をより促すことにつながると考えられる。

3-2-2.見える化効果-6

省エネ行動要請世帯における省エネ行動実験の効果

・テレビ画面の明るさを抑えめにする

見える化機器設置前に対する計測終了時の使い方



省エネ行動実験実施の有無

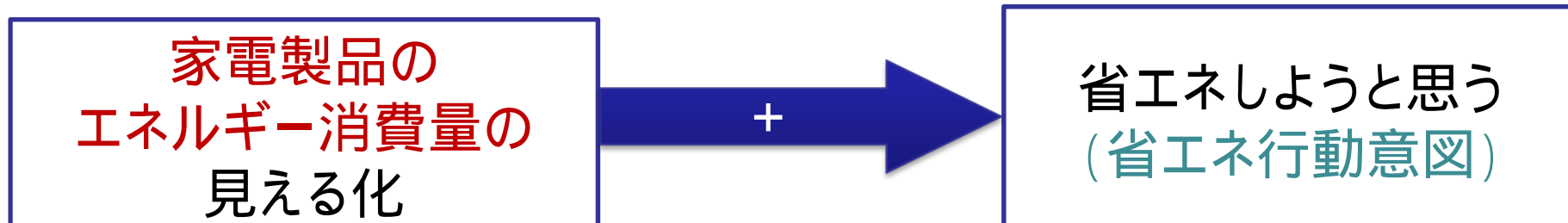
見える化機器設置前の使い方

・設置前の使い方によらず、省エネ行動実験実施した世帯は設置前に比べて明るさを抑えめにするようになっており、省エネ行動要請による一定の成果が見られる。

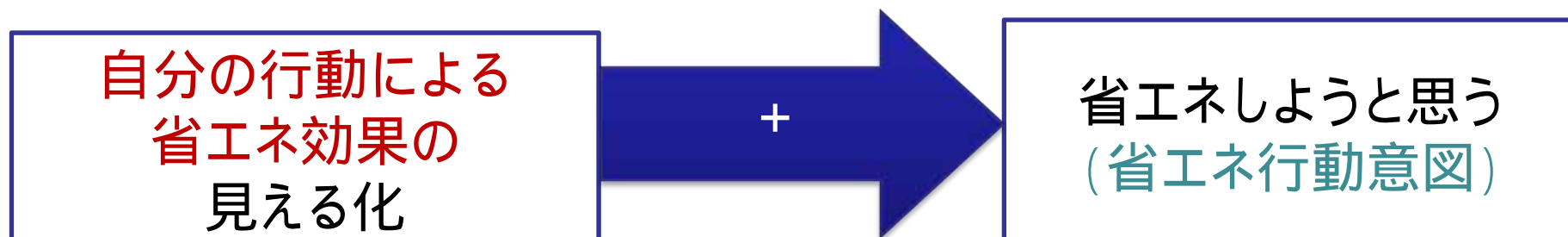
3-2-2.見える化効果-7

(3)「見える化」と省エネ行動意図との関係

仮説1: エネルギー消費量を「見える化」すると、省エネ行動意図が高まる。



仮説2: 自分の省エネ行動を「見える化」すると、省エネ行動意図が高まる。

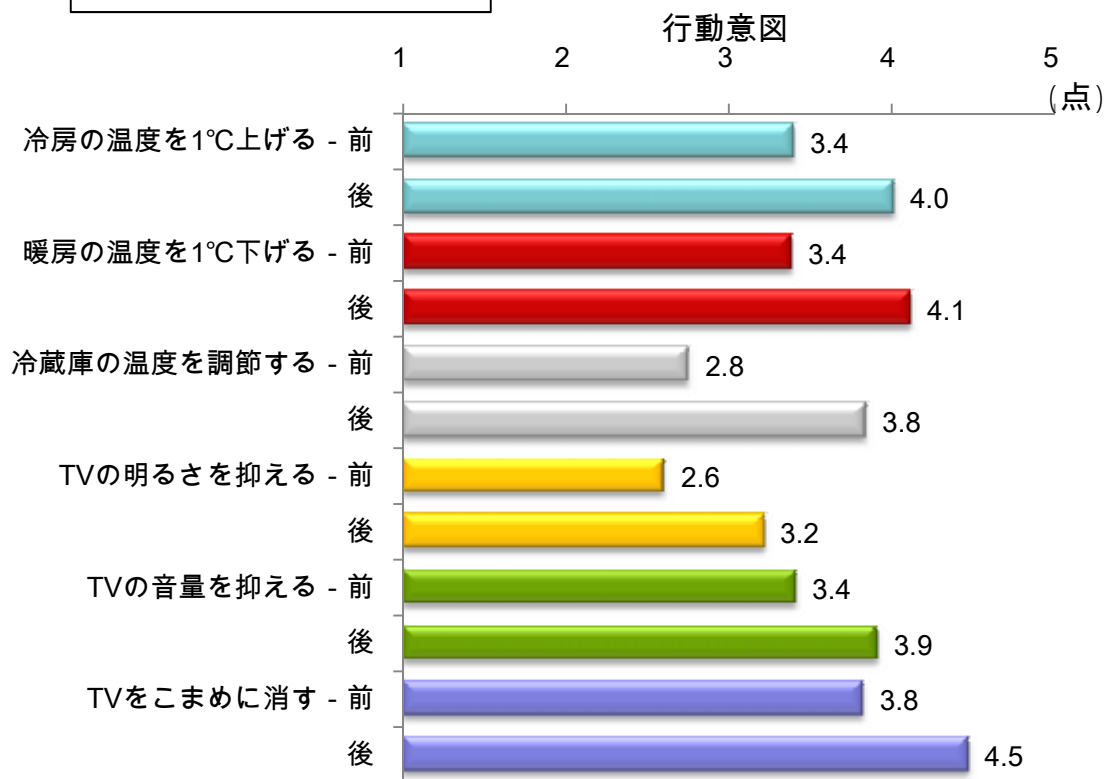


仮説3: 家電製品のエネルギー消費量の「見える化」に加えて
自分の省エネ行動も「見える化」する方が、省エネ行動意図が高まる。

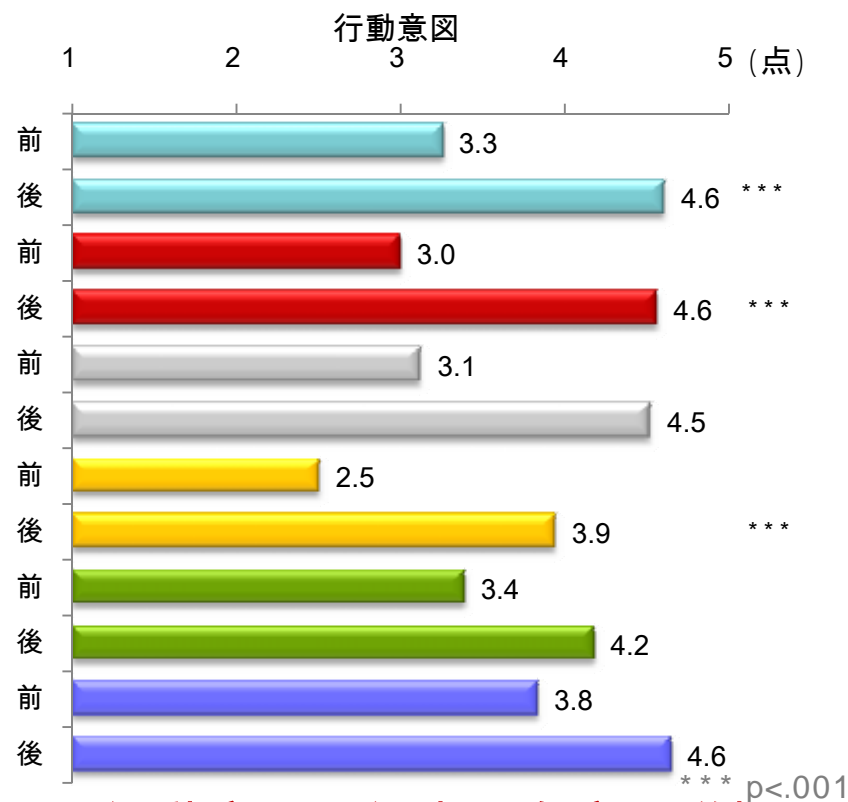
3-2-2.見える化効果-8

「見える化」と省エネ行動意図との関係(2)

ナビのみ 世帯



ナビ+行動要請 世帯



全ての行動において、計測開始時と計測終了前では行動意図の得点は有意に増加
 冷房、暖房 および TVの明るさ の各行動において、
 ナビのみ世帯と行動要請世帯の間で、行動意図の得点の差分が有意に異なる。

3-2-2.見える化効果-9

(4)テレビ電気消費量の見える化効果

- 「見える化機器設置前」と「計測終了時」の比較 -

省エネ行動：画面の明るさを抑えめにする

【テレビ(全体)】・1時間当たり電気消費量(Wh/h)

No.	グループ	省エネナビ設置前よりテレビ画面の明るさを抑えめにする(統合)	(a) 1時間当たり 電気消費量 平均 <計測開始 時> (Wh/h)	(b) 1時間当たり 電気消費量 平均 <計測終了 前> (Wh/h)	個別サン プル毎の (b)/(a)の平 均 (%)	No.3(対す る比 (%)	n
1	省エネ行動要請世帯	省エネ行動を起こした世帯	120	116	98%	94%	27
2		省エネ行動変化がなかった世帯	112	115	102%	99%	17
3	見える化機器設置のみ世帯		142	145	103%	100%	53

【液晶テレビ】・1時間当たり電気消費量(Wh/h)

No.	グループ	省エネナビ設置前よりテレビ画面の明るさを抑えめにする(統合)	(a) 1時間当たり 電気消費量 平均 <計測開始 時> (Wh/h)	(b) 1時間当たり 電気消費量 平均 <計測終了 前> (Wh/h)	個別サン プル毎の (b)/(a)の平 均 (%)	No.3(対す る比 (%)	n
1	省エネ行動要請世帯	省エネ行動を起こした世帯	121	118	99%	95%	17
2		省エネ行動変化がなかった世帯	117	119	101%	97%	9
3	見える化機器設置のみ世帯		129	131	104%	100%	28

・「テレビ(全体)」では、見える化機器設置のみ世帯では、電気消費量は微増し、省エネ効果は見られなかった。

・省エネ行動要請世帯では、行動変化がなかった世帯は微増した一方で、行動変化のあった世帯は若干の減少傾向が見られたが有意な差はでていない。

・「液晶テレビ」でも同様であった。

3-2-2.見える化効果-10

省エネ行動：こまめに消す

・1日当たり使用時間(h/日)

No.	グループ	省エネナビ設置前より見たい番組がない時は、テレビをこまめに消す(統合)	(a) 1日当たり使用時間 <計測開始時> (h/日)	(b) 1日当たり電気消費量 <計測終了前> (h/日)	個別サンプル毎の (b)/(a)の平均 (%)	No.3に対する比 (%)	n
1	省エネ行動要請世帯	省エネ行動を起こした世帯	12.4	12.0	96%	93%	10
2		省エネ行動変化がなかった世帯	9.3	8.5	94%	91%	37
3	見える化機器設置のみ世帯		9.7	9.4	100%	100%	53

- ・見える化機器設置のみ世帯では、機器設置前に対する計測終了時の省エネ効果(使用時間の減少)は見られなかった。
- ・省エネ行動要請世帯は、省エネ行動変化を起こした世帯、行動変化がなかった世帯ともに、使用時間が減少しており、行動による差が確認できない。
- ・したがって、見える化機器を設置するだけでは、また「見える化」機器の利用経験だけでも、使用時間の減少に直結していない。
- ・計測終了時に「こまめに消す」が習慣化されなかったことも一つの要因として考えられる。

3-2-2.見える化効果-11

省エネ行動：音量を抑えめにする

・1時間当たり電気消費量(Wh/h)

No.	グループ	省エネナビ設置前よりテレビの音量の大きさを抑えめにする(統合)	(a) 1時間当たり 電気消費量 平均 <計測開始 時> (Wh/h)	(b) 1時間当たり 電気消費量 平均 <計測終了 前> (Wh/h)	個別サンプル毎の (b)/(a)の平均 (%)	No.3に対する比 (%)	n
1	省エネ行動要請世帯	省エネ行動を起こした世帯	114	115	102%	98%	28
2		省エネ行動変化がなかった世帯	120	115	96%	93%	12
3	見える化機器設置のみ世帯		142	145	103%	100%	53

- ・見える化機器設置のみ世帯では、計測終了時における省エネ効果(Wh/hの減少)は見られなかった。
- ・省エネ行動要請世帯でも同様であり、省エネ効果が確認できなかった。

4.まとめ

4.まとめ-1

実態把握について下記の成果が得られた

電気消費量・使用時間等(1)

- テレビ
- ・テレビの単位時間当たり電気消費量は定格消費電力の7割弱程度
 - ・1日の使用時間が長い(約9時間)。リビングなど主室に設置しているテレビが多いことが要因として考えられる。使用時間の内訳は、番組視聴時間が8割、残りは録画再生やゲーム等が占める。
 - ・サイズが小さいテレビは使用時間も短い傾向
 - ・テレビの使用時間がアンケートを大きく上回る結果は、親子世帯に多く、子供のテレビ利用(番組視聴、テレビゲームなど)を把握できていない可能性が考えられる。
- 冷蔵庫
- ・同容量では製造年が新しいほど電気消費量が少ない。
- エアコン冷房
- ・8月の利用率は平日5割、週末に増加
 - ・1日の使用時間は5時間強
- エアコン暖房
- ・1月利用率は平日5割、週末に増加しない。
 - ・1日の使用時間は6時間弱
 - ・1回当たりの使用時間は短くなると消費電力効率は低くなる傾向にある。

4.まとめ-2

電気消費量・使用時間等(2)

- 照明 : 使用時間は一日6時間弱、点灯回数2.1回/日
その他 : 世帯全体に占めるテレビ(1台)、冷蔵庫(1台)、エアコン(1台)の割合は全体の25~40%程度の間で変動

省エネ行動実験

省エネ効果

省エネ行動を要請し取り組んでいただいた結果、一定の効果が確認できた。これは省エネナビで効果を確認しながら省エネ行動に取り組んでいただいたことも要因の一つとして考えられる。

- テレビ : 画面の明るさを抑える (Wh/hで評価) : 8%
 こまめに消す (h/日で評価) : 7%
 音量を抑える (Wh/hで評価) : 効果が見られない
冷蔵庫 : 温度設定を弱めにする (Wh/日で評価) : 3~7%

4.まとめ - 3

「見える化」効果(1)

「見える化」と省エネ行動意図、省エネ効果

- ・行動意図に関しては見える化機器設置のみ世帯、省エネ行動要請世帯共に高まった。
 - ・特に、省エネ行動要請世帯の行動意図が有意に高くなった行動は
 - 「冷房の設定温度を1 上げる」
 - 「暖房の設定温度を1 下げる」
 - 「テレビの明るさを抑える」
- であり、家電製品の電気消費量を「見える化」するのみならず、自分の省エネ行動の結果を「見える化」することがより効果的である。

4.まとめ - 4

「見える化」効果(1)

テレビに関する「見える化」効果

- ・計測終了時に当初に比べ行動するようになったと回答した世帯は一定割合見られたものの、電気消費量削減の確認までには至らなかった。
- ・**省エネ行動実験に取り組んだ世帯**は、実験後、同じレベルまでは戻っておらず、逆に見える化機器設置のみ世帯は増加している傾向があるため、リバウンドはあるにしても**一定程度の成果**があったと言える。
- ・省エネ行動実験に取り組んだ世帯で、そのまま継続している世帯は1段階抑えた輝度が視聴者にとって十分かどうかを検証ができたものと考えられる。一方で、輝度を戻した世帯では、見える化の効果が高いのか、視聴者にとって輝度がより重要であったかは不明であり、今後、詳細に検討が必要と考えられる。

4.まとめ-5

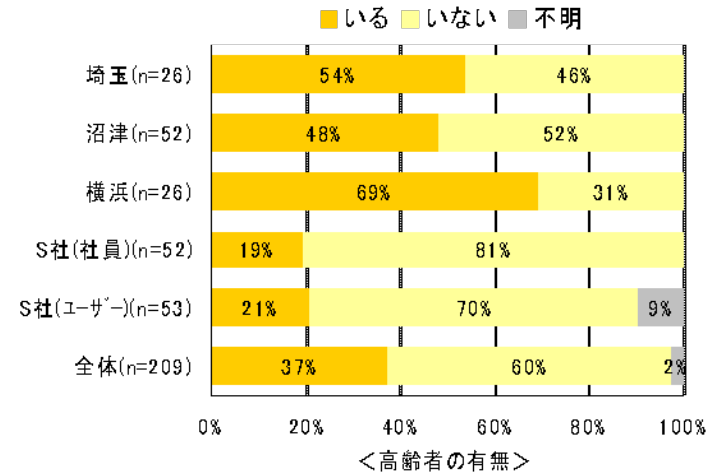
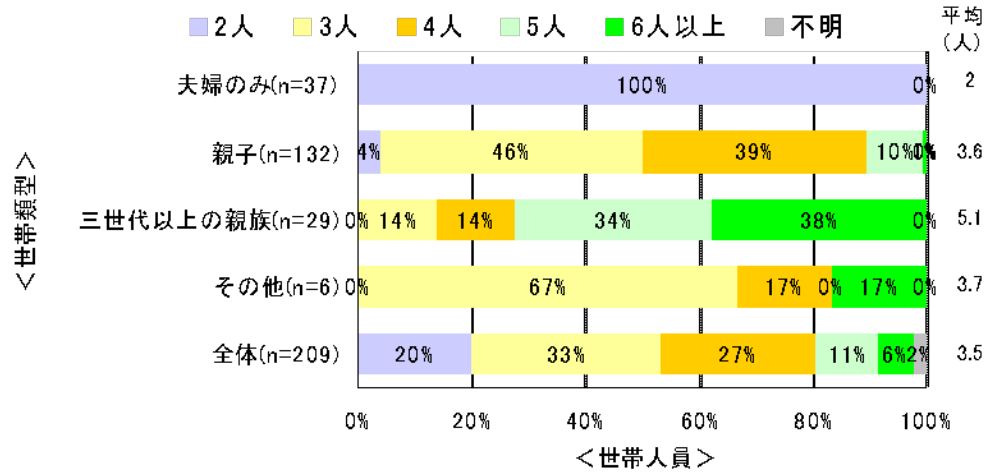
今後の課題

- ・「見える化」機器を設置しただけでは省エネ行動につながりにくいいため、「見える化」とともに省エネ行動をうながすような情報提供を行う必要がある。
CO2情報提供ツール等と連携するなど、計測モデル事業対象世帯に省エネ行動を喚起し、検証することが重要
- ・意識と使い方のつながりが弱く、今回は課題が残った。今後、行動につながるための効果的な情報提供に関する分析が必要
- ・CO2排出量削減に有効な方策を組んだ計測モデル事業の実施
効果的な省エネ行動の誘導； 見える化機器の見せ方、注意喚起方法を改善し、省エネ行動を誘発する効果的な方法を検討すべき。
削減効果の検証
効果検証に当たって統計上有効なサンプル数を確保すべき。

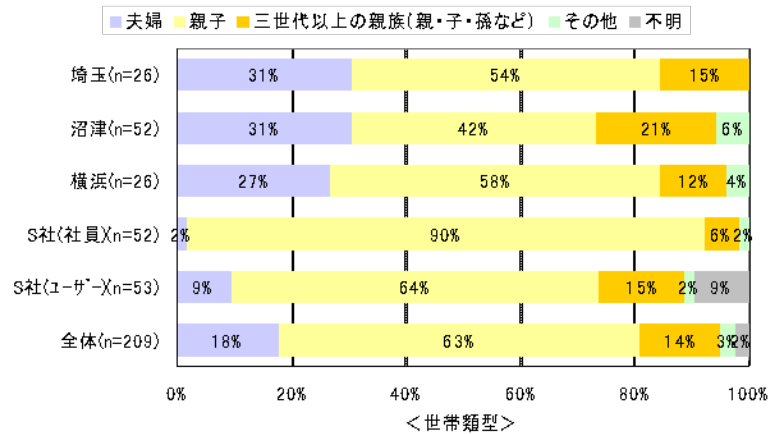
資料編

3-1-1.世帯・住宅属性-1

3-1-1.対象世帯・住宅の属性

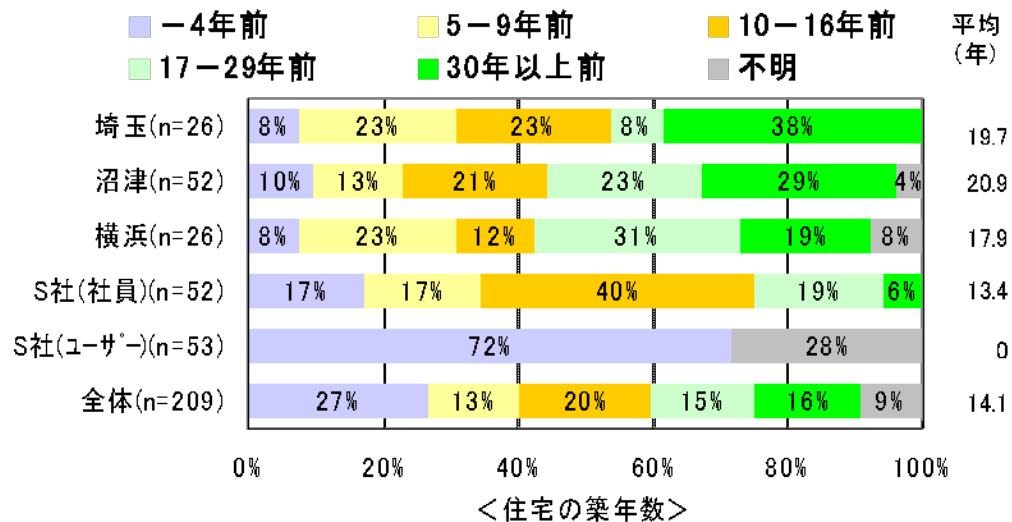
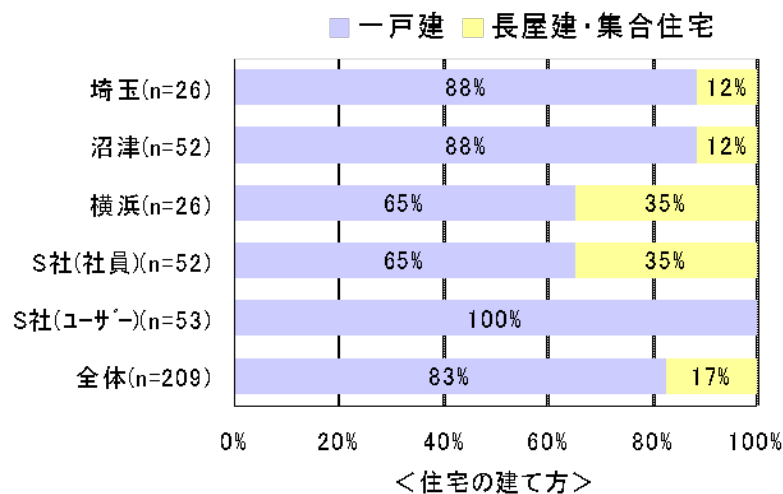


注)世帯類型「不明」は除く



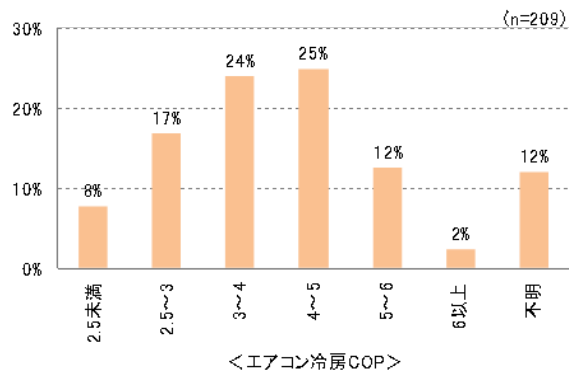
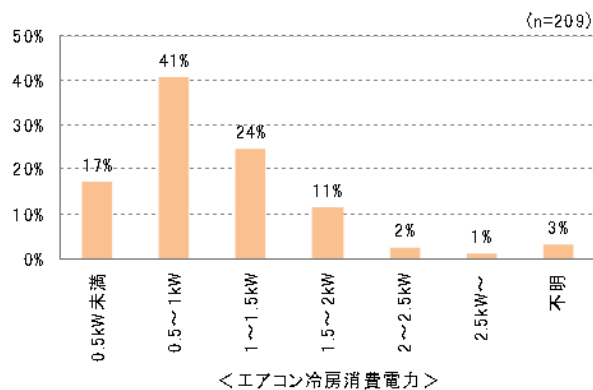
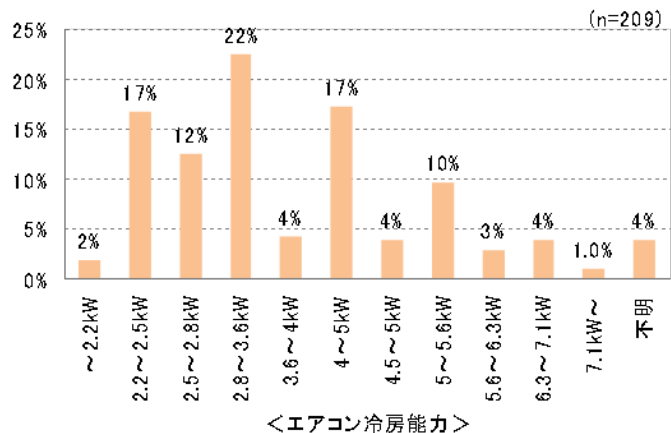
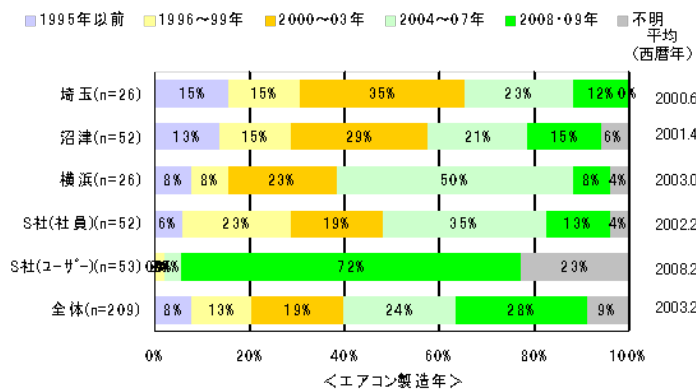
3-1-1.世帯・住宅属性-2

3-1-1.対象世帯・住宅の属性(2)



3-1-1.機器属性-1

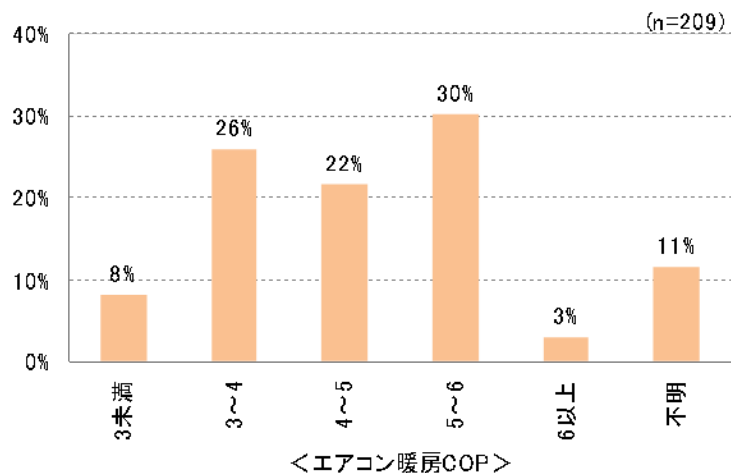
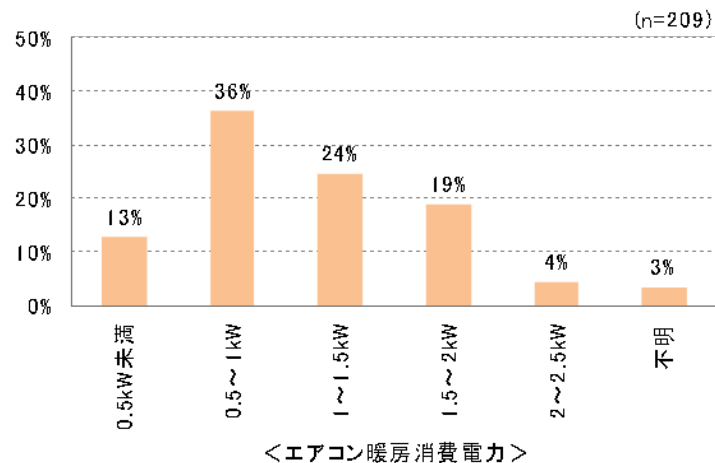
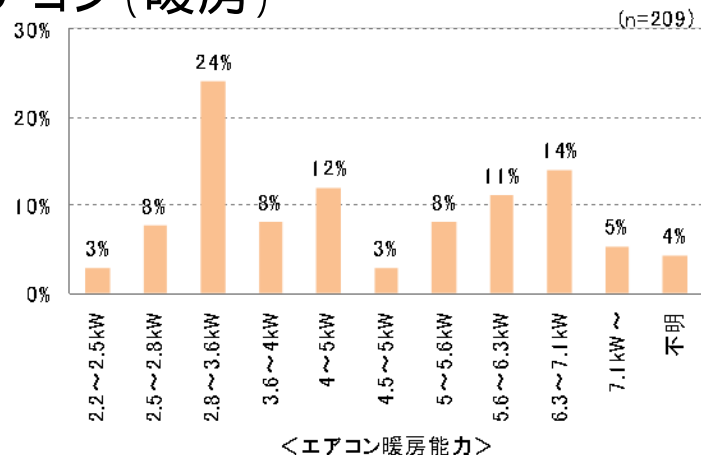
3-1-2.対象機器の特徴 ・エアコン(冷房)



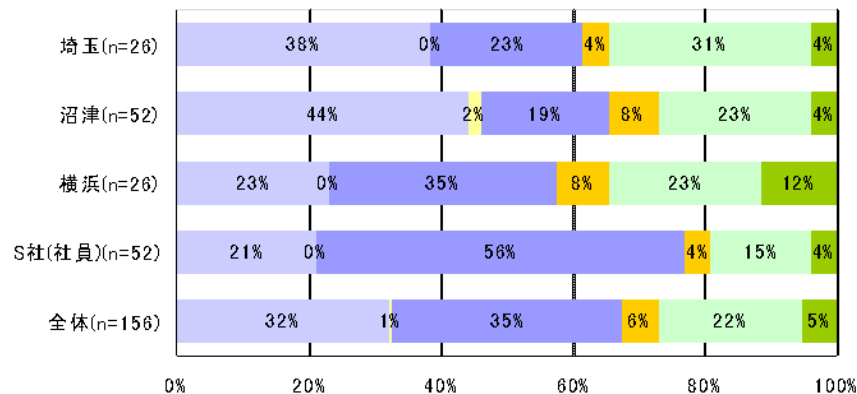
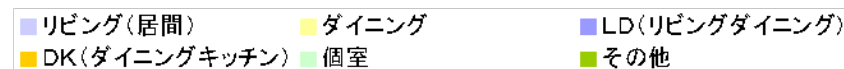
3-1-1.機器属性-2

3-1-2.対象機器の特徴

・エアコン(暖房)



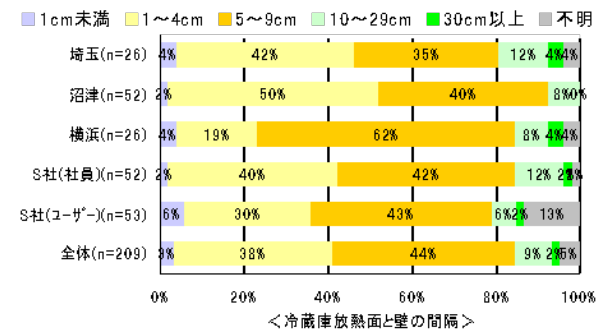
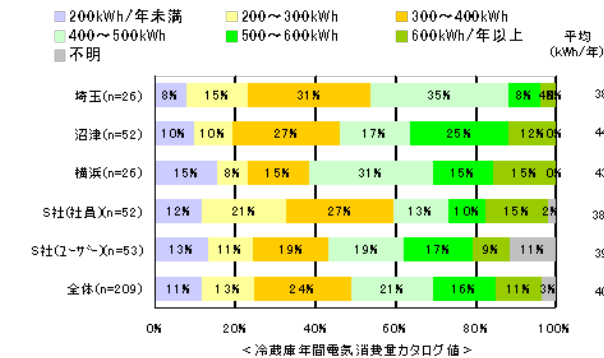
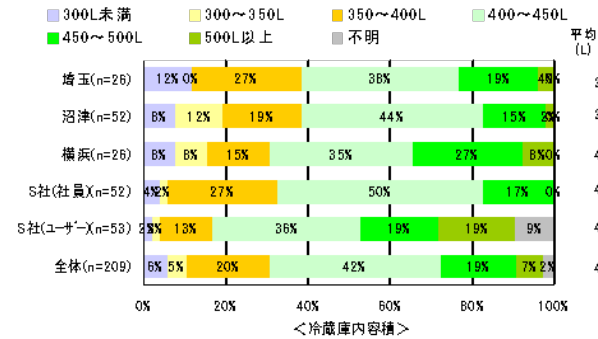
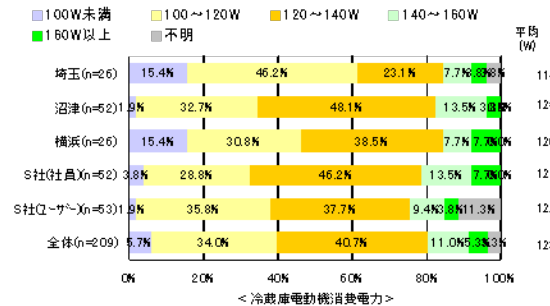
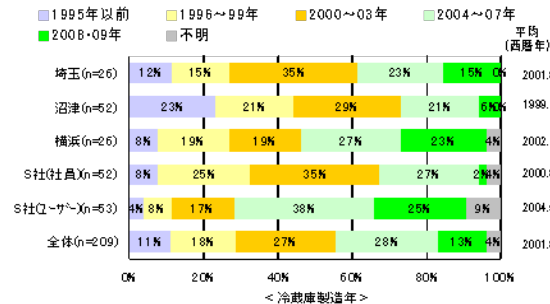
エアコン設置場所



3-1-1. 機器属性 - 3

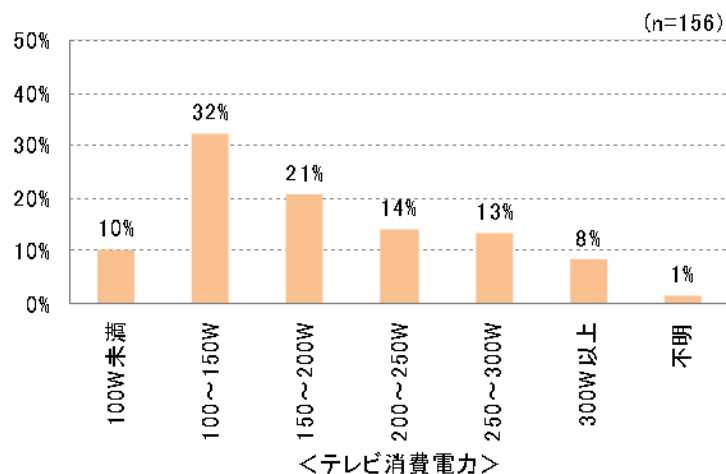
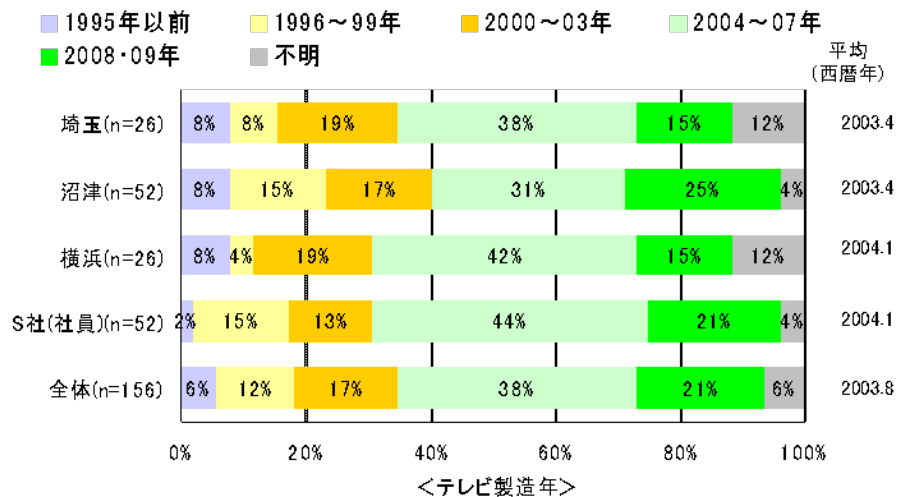
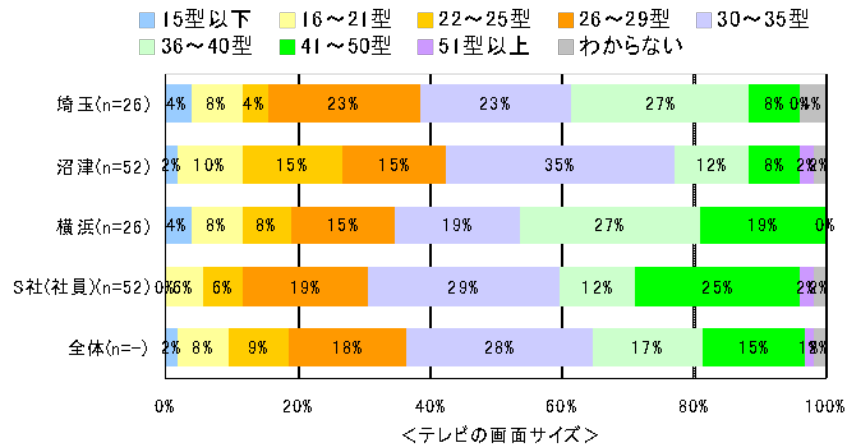
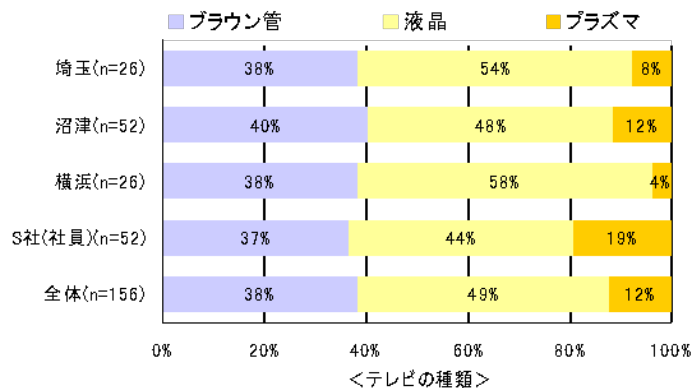
3-1-2. 対象機器の特徴

・冷蔵庫



3-1-1.機器属性-4

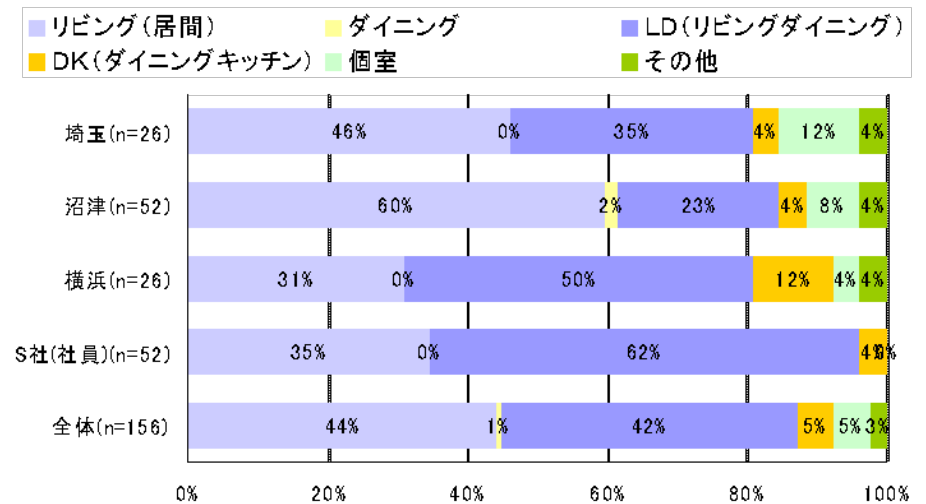
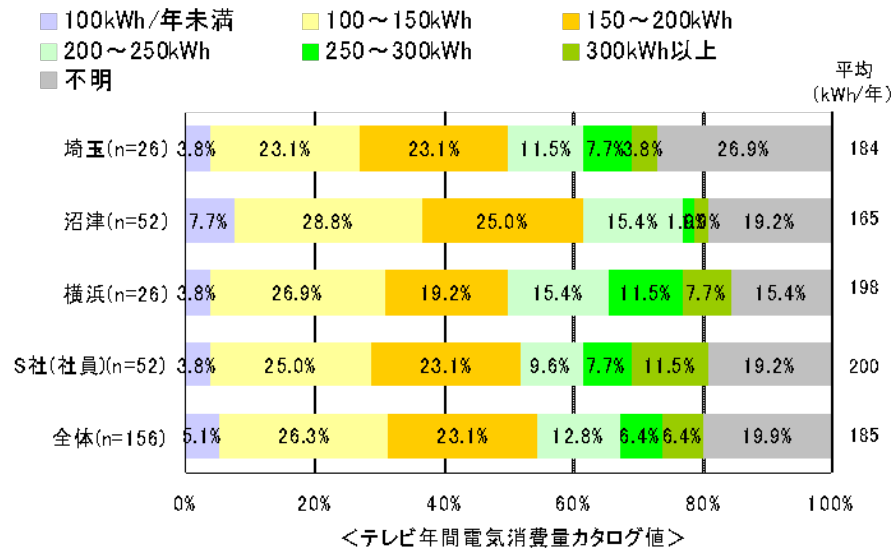
3-1-2.対象機器の特徴 ・テレビ



3-1-1.機器属性-5

3-1-2.対象機器の特徴

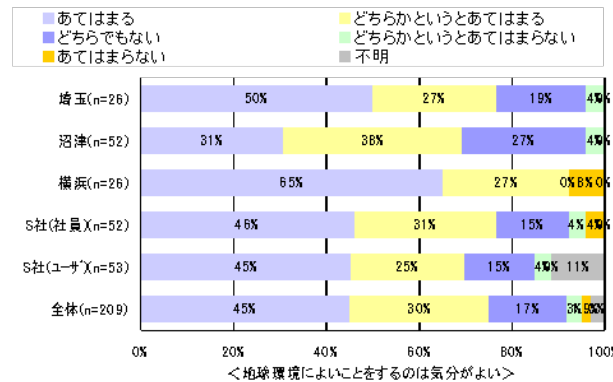
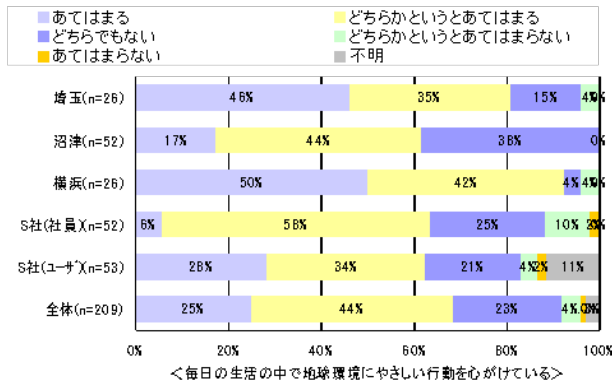
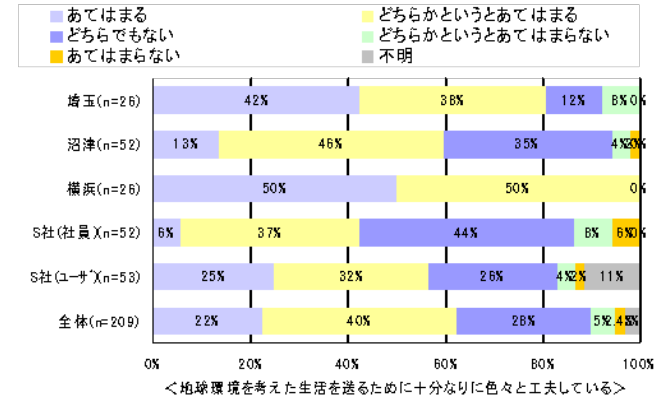
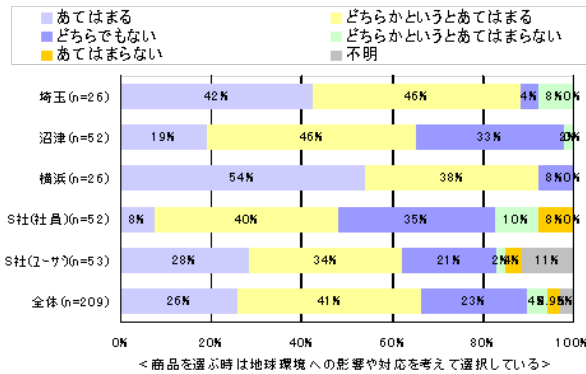
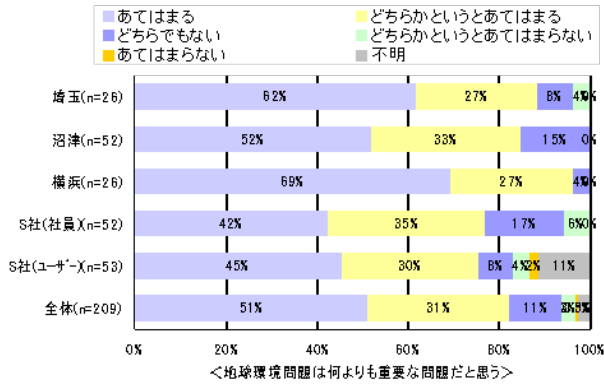
・テレビ(つづき)



3-1-1.省エネ意識・行動-1

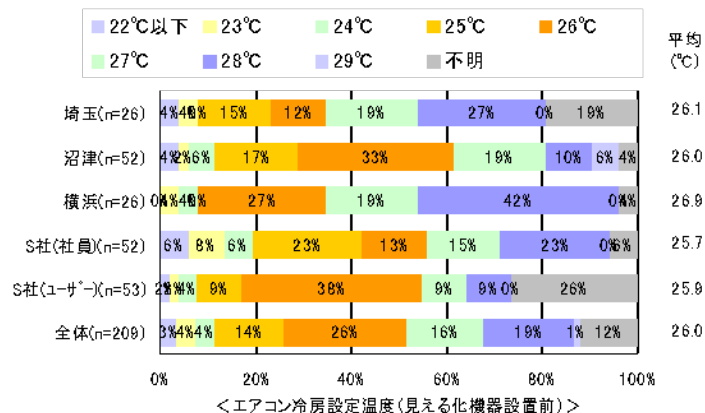
3-1-3.地球環境問題に対する意識・行動

(1) 地球環境問題に対する意識

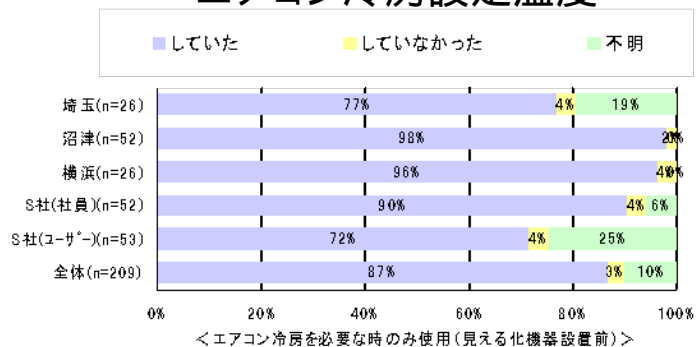


3-1-1.省エネ意識・行動-2

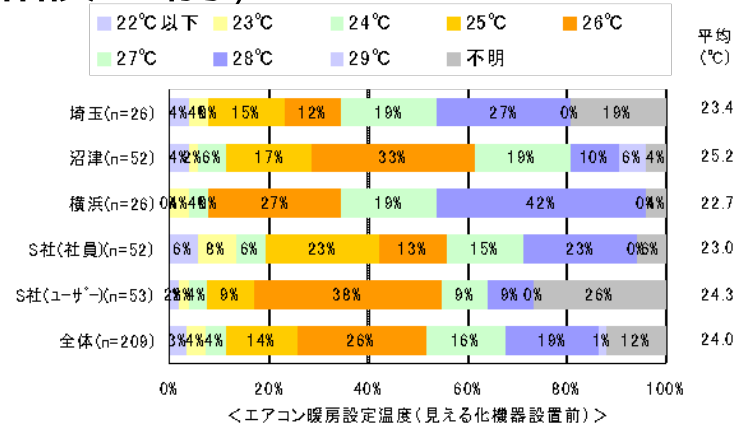
(2) 省エネ行動(「見える化」機器設置前)



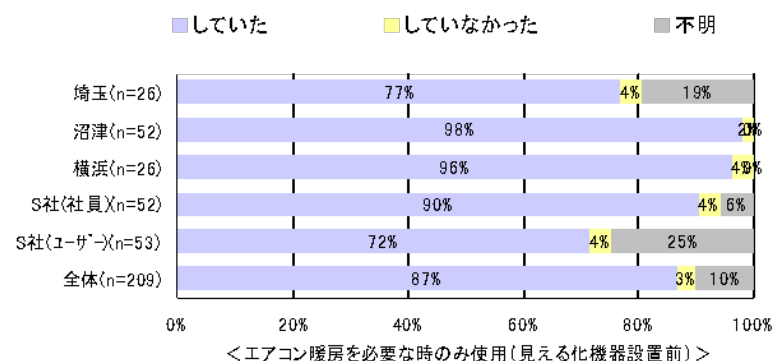
・エアコン冷房設定温度



・エアコン冷房を必要な時のみ使用

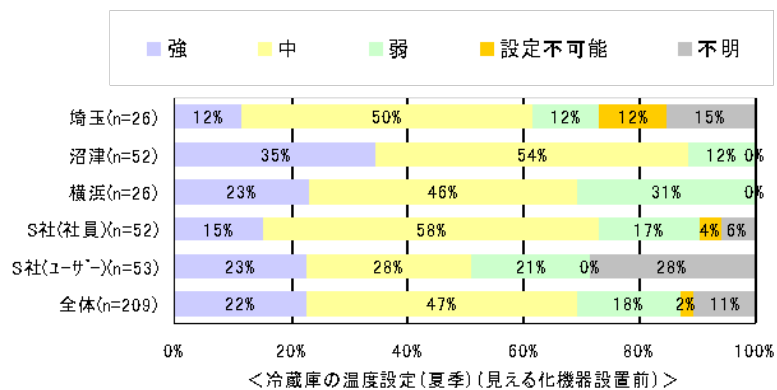


・エアコン暖房設定温度

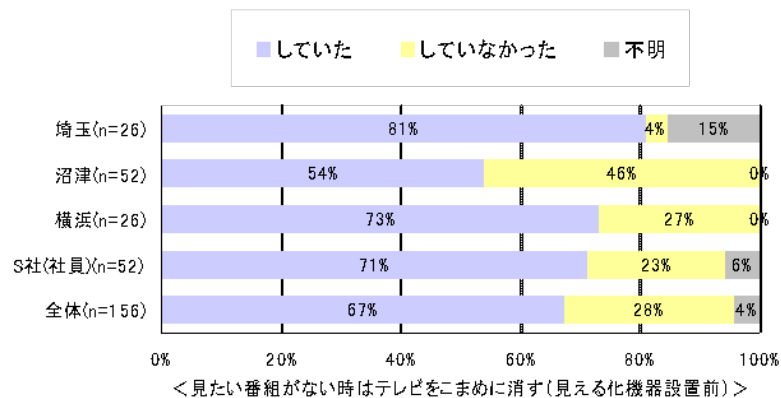


・エアコン暖房を必要な時のみ使用

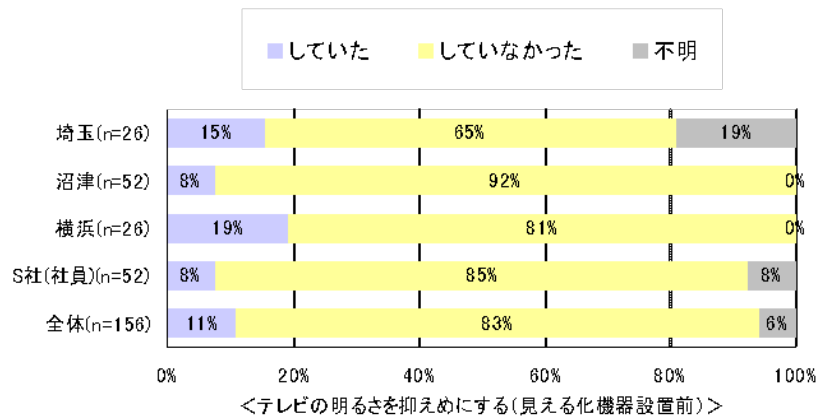
3-1-1.省エネ意識・行動-3



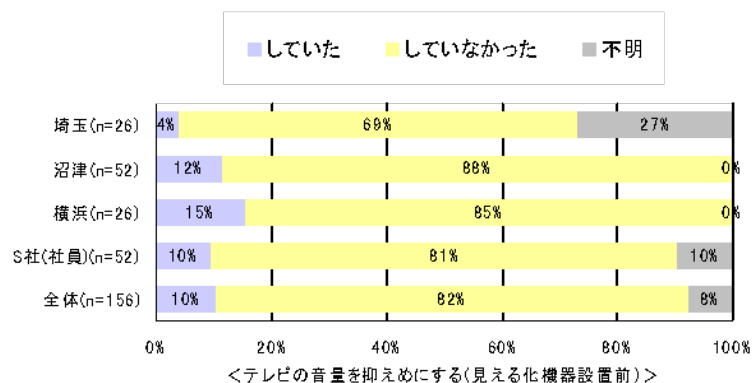
・冷蔵庫の庫内温度設定(夏季)



・テレビをこまめに消す



・テレビの画面明るさを抑えめにする



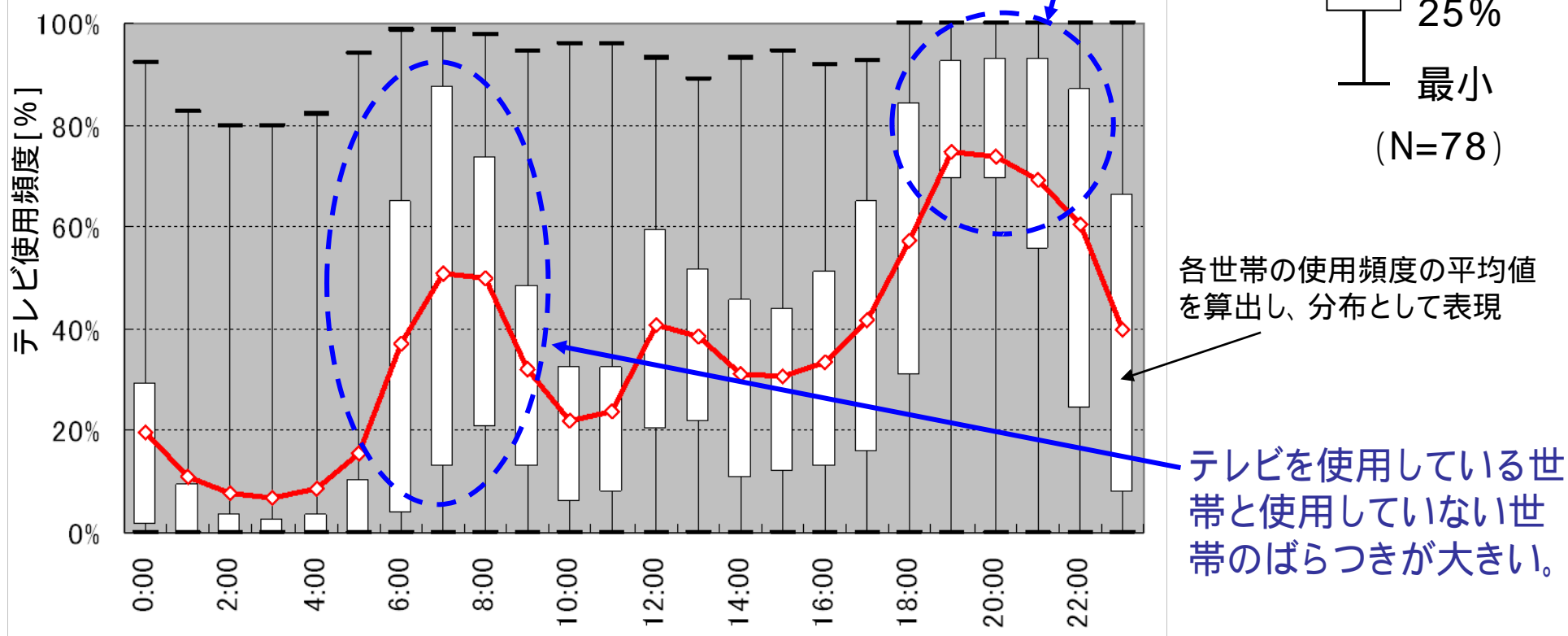
・テレビの音量を抑えめにする

3-1-2.電気消費量

< 電気消費量・使用時間の傾向 >

時刻別の各世帯のテレビ使用頻度

20時頃にピークが見られる。
次いで、朝7時、昼食時の12時に小ピークあり



テレビ使用頻度: 当該時間帯にテレビを使用している世帯の割合

3-1-2.電気消費量

< テレビ使用時間に関する既存調査との比較 >

・既存文献におけるテレビ使用時間の測定方法

$$E = \{ (PO - PA / 4) \times t1 + PS \times (t2 - tepg) + Ppeg \times tepg \} / 1,000$$

E : 年間消費電力量 (kWh / 年)

PO : 動作時消費電力 (W)

PS : 待機時消費電力 (W)

PA : 節電機能等による削減電力 (W)

Ppeg : EPG2データ取得時の電力 (W)

データ取得時の電力 (W)

t1 : 年間基準動作時間 1,642.5時間 / 年 = (365日 × 4.5時間 / 日)

t2 : 年間基準待機時間 7,117.5時間 / 年 = (365日 × 19.5時間 / 日)

tepg : 年間基準EPG取得動作時間 (機器により異なる)

・省エネ法のテレビ消費電力測定時における、想定視聴時間は4.5時間/日

3-1-2.電気消費量

< テレビ使用時間に関する既存調査との比較 >

・既存文献におけるテレビ使用時間の測定方法

・省エネ法のテレビ消費電力測定時の視聴時間4.5時間/日の設定経緯は以下のとおり。

テレビの特定機器への最初の指定時(1994年度)

以下の調査資料を基に、4.5時間/日と定めた。

「家電製品の使用実態及び消費者の省エネ意識調査報告書」家電製品協会、平成4年12月

「放送研究と調査(93年2月)テレビ、ラジオ視聴の現状」NHK、平成5年2月

総合エネルギー調査会省エネ基準部会判断基準小委員会 中間とりまとめ(1998年度)

(社)日本電気工業会による使用実態調査を首都圏を対象に行い、テレビの使用時間を調査。平均使用時間は、一般世帯11時間18分、単身世帯5時間25分。

上記データベースをもとに世帯内訳とテレビ保有台数(2.26台/世帯)から、平均使用時間は4時間21分。この結果から、視聴時間の4.5時間/日の変更の必要性無しと判断。

総合エネルギー調査会省エネ基準部会判断基準小委員会 中間とりまとめ(2009年度)

1994年度の基準設定時と同一調査(NHK)の毎年の推移からみて、過去に比較して視聴時間の変化はみられず、当初の4.5時間/日を踏襲。

→基準は、個人単位のNHK調査を基に決められているが、**個人単位の使用時間は一台当たりテレビ使用時間に比較して少なめ。**

1998年基準改訂時は平均保有台数から算出した時間と比較検討。

使用時間は1台目>2台目以降と推察される状況では、保有台数あたりの平均使用時間では、1台目の実態に比較して極端に少ない。